

# 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に 向けた歯学調査研究チーム 第1回会議報告

歯学調査研究チームリーダー  
東京医科歯科大学歯学部附属病院長  
嶋田昌彦

1

## 歯学チーム実施体制

- 荒木 孝二 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授  
天野 修 明海大学歯学部教授  
五島 衣子 昭和大学歯学部講師  
斎藤 隆史 北海道医療大学歯学部長  
○ 嶋田 昌彦 東京医科歯科大学歯学部附属病院長・教授  
中嶋 正博 大阪歯科大学教授  
平田 創一郎 東京歯科大学教授  
小野 和宏 新潟大学大学院医歯学総合研究科教授  
松香 芳三 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授
- (協力者) 石田 達樹 社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構  
事業部長  
犬飼 周佑 文部科学省技術参与、東京医科歯科大学助教  
關 奈央子 文部科学省技術参与、東京医科歯科大学助教

○: チームリーダー

2

# 第1回会議：平成28年1月25日開催 協議事項

- モデル・コア・カリキュラム改訂に向けた方向性について  
企画提案書の説明  
前回の改訂について
- 今後の進め方について  
改訂の基本方針について  
改訂の日程、役割分担  
意見調査(アンケート)

3

## 企画提案書

### 歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に係ること

- モデル・コア・カリキュラムの改訂作業にあたり、国内ならびに国外のカリキュラムの実情を調査し課題の抽出と分析を行い、国際的な歯学教育水準と乖離のないこと、併せて国内の各大学の意見反映や社会的ニーズも念頭に置き、これまでの改訂に関する検討も踏まえて、改訂素案の作成を行う。
- 平成21年1月「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 第1次報告～確かな臨床能力を備えた歯科医師養成方策～」の内容と平成23年3月に改訂された歯学教育モデル・コア・カリキュラムについて、その検証結果を踏まえて改訂作業を進める。改訂ないしは検討すべき検証事項としては、下記の2つの観点が挙げられる。
- **①診療参加型臨床実習の体系的・段階的な実施**  
「臨床実習開始前までに習得すべき知識・技能」の示し方を見直す。  
臨床実習の到達目標について見直し、診療参加型を考慮に入れた臨床実習の充実を図る。
- **②多様な歯科医療のニーズ等に対応できる歯科医師の養成**  
・在宅歯科医療、**地域包括ケアの構築、多種職連携によるチーム医療**、健康長寿社会など、多様な歯科医療ニーズ等に対応できる歯科医師の養成が必要である。従って、**口腔と全身との関わりや高齢者、全身疾患を有する者等への対応**、歯科法医学、予防歯学、社会医学など今後の歯学教育を取り巻く環境の変化を見据えて、医学・医療との連携を含めた幅広い歯学教育の在り方について検討する。  
・歯学教育全体を通して、学生が主体的に考える力を育成する課題発見・問題解決型の学習を充実する。

4

## 近年～昨今の医学に関する論点 文部科学省より当日追加提示

- 倫理と医療安全
- 公衆衛生と社会保障(医療制度)
- 実践的な臨床能力と医学知識

社会からの要望の大きさに伴う教育の質の保証・標準化  
個別の項目については1増・1減を原則として、総論の充実や  
各分野の自主的な共同作業を促す

5

## 平成22 年度改訂版における方針(1)

- (1) 歯科医師として必要な臨床能力の確保
- (2) 優れた歯科医師を養成する体系的な歯学教育の実施
- (3) 未来の歯科医療を拓く研究者の養成

平成20年度に文部科学省主催で開催された「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」(江藤一洋座長)にて提言

6

## 平成22 年度改訂版における方針(2)

- 前頁の3つの方針に加えて、  
(4)多様な社会的ニーズへの対応として、緊急性が高く、歯科の関与により社会への貢献が大きいと考えられる以下の内容について、
  - ①歯科医師として普遍的に求められる資質
  - ② 医療安全(患者および医療従事者の安全性確保)
  - ③ 患者中心のチーム医療(医療分野における多職種連携)全体の量的抑制に留意しつつ、可能な範囲で改訂した。学生が卒業時まで習得して身につけておくべき実践的能力(competences)を「到達目標」として、客観的に評価できるよう、可能な限り具体的かつ明確に示した。

7

## 今後の進め方について

- (1)改訂の基本方針について
- (2)改訂の日程、役割分担
- (3)意見調査(アンケート)

8

# (1) 改訂の基本方針について

- ① 診療参加型臨床実習の体系的・段階的な実施
- ② 多様な歯科医療のニーズ等に対応できる歯科医師の養成

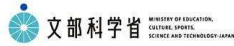
歯学教育の質向上のための施策の方向性

(平成24年12月歯学教育の改善・充実にに関する調査研究協力者会議まとめ)

これに基づいて、

また本日の合同会議の議論を踏まえて進めていく。





歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議【提言・要望】

2014年2月24日  
 歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議

歯学教育の質の向上及び歯学教育に対する社会の理解・信頼の確保を図るため、また、これまで本会議が取りまとめた、  
 ■「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告」(平成21年1月) ※  
 ■「第1次報告を踏まえた平成24年度フォローアップ調査まとめ」(平成24年12月) ※  
 ■「歯学教育の質向上のための施策の方向性」(平成24年12月) ※  
 等を踏まえ、このたび、以下のとおり本会議の提言・要望を改めて取りまとめましたので、各歯学部においては、積極的な対応をお願いします。

1. 診療参加型臨床実習の充実

○ 歯科医師として必要な臨床能力の確実な修得のため、引き続き、診療参加型臨床実習の充実に向けた取組をお願いします。  
 ○ 充実に向けたことは、  
 ■「診療参加型臨床実習コア・カリキュラム事例集(案)」※  
 ■「診療参加型臨床実習 臨床研修連携手帳(案)」※  
 (平成24年3月 文部科学省先導的工学改革推進委託事業「医学・歯学教育の改善・充実に関する調査研究チーム」取りまとめ)  
 ■「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告を踏まえた平成24年度フォローアップ調査まとめ」  
 (平成24年12月 フォローアップ小委員会) ※  
 を踏まえた取組を推奨します。

2. 多様な歯科医療ニーズ等に対応した歯科医師養成

○ 歯学教育に対する社会のご理解・信頼の確保、及び歯科医師の活躍の場の拡大を図っていくためには、社会の変革の推進となる歯学部づくりが必要です。  
 ○ そのため、各歯学部におかれましては、それぞれの強みや特色をいかしながら、多様な歯科医療ニーズ(在宅歯科医療、地域包括ケアの構築、口腔(こくう)がん、スポーツ歯科、歯科法医学、健康長寿社会の実現、革新的な歯科医療機器の開発・普及等)に対応した歯科医師の養成や、地域又は世界規模の課題解決に向けて、引き続き積極的な取組をお願いします。

3. 教育活動等に関する情報の公表

○ 各歯学部における教育活動等の情報(入学希望区分ごとの授業料・入学科・留年率・国試合格率、診療参加型臨床実習の実績、学習成果、教育の内部質保証など)は、受験生や在学生にとっても有用な情報となることから、各歯学部は、大学ホームページに掲載するなどの方法により広く公表するとともに、社会的評価を踏まえた適切な対応に取り組むようお願いいたします。

4. 歯学教育認証評価の導入

○ 日本の歯学教育の更なる質の向上を図るとともに、日本の歯学教育が国際標準を超えていることを証明するためには、分野別歯学教育認証評価を導入し、世界を先導することが必要と考えます。  
 ○ 現在、文部科学省の補助金事業として平成24年度から「歯学教育認証制度等の実施に関する調査研究」(東京医科歯科大学、新潟大学、九州歯科大学、東京歯科大学、大阪歯科大学)が実施されていますが、本会議としては本事業に期待するとともに可能な協力を行っています。  
 ○ 各歯学部においても、歯学教育認証評価の導入及び本事業への御理解・御協力をお願いします。

5. 平成26年度以降のフォローアップ調査の実施

○ 「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告」を踏まえたフォローアップ調査については、「別紙1」(平成26年度以降のフォローアップ調査の方向性)のとおり取りまとめましたので、御理解・御協力をお願いします。

6. 歯学部入学定員

○ 入学定員充足率の極端な超過校と低下校があること等は、歯学教育の質の低下につながる恐れがあるため、入学希望校に当たっては、歯科医師抑制に関する協議決定(昭和61年7月、平成10年5月)を踏まえ、入学定員(募集人員)内での受入れの遵守について徹底を図るとともに、入学定員未充足の歯学部については、適正な入学定員の設定や入学希望者の改善等、優れた入学者の確保に取り組むようお願いいたします。

※ 下記の報告書等は、文部科学省ウェブサイト「医学・歯学教育」のページに掲載しています。

- 「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告」(平成21年1月)
- 平成23年度先導的工学改革推進委託事業(平成24年3月)  
 「診療参加型臨床実習コア・カリキュラム事例集(案)」  
 「診療参加型臨床実習 臨床研修連携手帳(案)」
- 「第1次報告を踏まえた平成24年度フォローアップ調査まとめ」(平成24年12月)
- 「歯学教育の質向上のための施策の方向性」(平成24年12月)

- 【別紙1】平成26年度以降のフォローアップ調査の方向性
- 【参考】歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 委員名簿

お問合せ先

高等教育局医学教育課  
 医学教育係  
 電話番号: 03-5253-4111(代表)(内線3306)

(高等教育局医学教育課)  
 ー 登録: 平成26年03月 ー

Copyright (C) Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

# (2) 改訂の日程、役割分担

資料3

歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂作業及び役割分担について

日程	事業の内容	役割分担(案)
平成27年度 平成28年		< A ~ E 領域 > ○ 斎藤委員 ○ 天野委員 ○ 小野委員 ○ 平田委員 ○ 荒木委員 ○ 嶋田チームリーダー
1月25日	モデル・コア・カリキュラム改訂作業の開始 歯学調査研究チームの立ち上げ 歯学調査研究チーム会議開催	
2月~3月15日	国内および国外の歯学教育カリキュラムの実情調査 共用試験実施評価機構CBT・OSCE委員へのモデル・コア・カリキュラム改訂意見調査 日本歯科医学会分科会へのモデル・コア・カリキュラム改訂意見調査 29歯科大学・歯学部へのモデル・コア・カリキュラム改訂意見調査	
2月~3月	国外の歯学教育カリキュラム調査(現地派遣あるいはインターネット上からの渉猟) シドニー大学への歯学教育カリキュラム調査(荒木委員)	< F 領域 > ○ 中嶋委員 ○ 松香委員 ○ 五島委員
3月	調査内容の集計	
平成28年度		
4月	モデル・コア・カリキュラム改訂素案作成	
5月~8月	モデル・コア・カリキュラム改訂素案のブラッシュアップ (医学教育モデル・コア・カリキュラム改定案とのすり合わせ)	
9月	モデル・コア・カリキュラム改訂最終案作成	
10月~11月	モデル・コア・カリキュラム改訂最終案 バブコメ収集	
11月~3月	モデル・コア・カリキュラム改訂最終案の作業	
平成29年度		
4月~8月	改訂後の検証及び周知	
8月~12月	実務手引き等の作成	
1月~2月	英訳による海外への情報発信	

### (3) 歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂にかかわる意見調査の依頼(アンケート)

- 共用試験実施機構歯学系CBT, OSCE委員
- 日本歯科医学会(専門分科会、認定分科会)
- 各歯科大学・大学歯学部

13

## 改訂のキャッチフレーズは？

- **多様な歯科医療のニーズ等に対応できる歯科医師の養成**

在宅歯科医療、地域包括ケアの構築、多種職連携によるチーム医療、健康長寿社会など、多様な歯科医療ニーズ等に対応できる歯科医師の養成

14

# 本日特にご議論いただきたい事項 (1)

## (全体的な事項)

1. 用語整理について（コアカリ、歯科医師国家試験、歯科研修医到達目標との整合性）
2. 歯科医師国家試験出題基準とのすりあわせ
3. 多職種連携、地域包括ケアシステム、在宅医療等医学・歯学のすりあわせ（医学と共通）
4. 前回改訂後からの歯学や制度の変化を踏まえた修正すべき事項の検討
5. グローバルスタンダードへの対応について(コンピテンシーベースについて)(医学と共通)

15

# 本日特にご議論いただきたい事項 (2)

## (個別の事項)

6. 臨床実習内容(現行歯学コアカリP47)について(診療参加型臨床実習の実態にあわせた水準に変更が必要)
7. 多職種連携の取組の強化(周術期口腔機能管理も含めた医療機関連携について)
8. 地域包括ケアシステムの構築、在宅歯科医療の充実
9. 全身疾患と歯科治療、口腔状態の関連について
10. 歯科法医学(災害に関連して)
11. 準備教育に国際社会に対応できる人材育成に関する取組について(英語+α)(薬学コアカリ、準備教育ガイドラインに「薬学の基礎としての英語」が記載)(医学と共通)

16



# 本日特にご議論いただきたい事項 (3)

12. 臨床実習開始までの基礎模型実習を含めた、技能教育に関する到達目標について